



やとりきっ子

学び続ける学校 あたたかな学校 潤いのある学校

学校教育目標

「自ら学び 心豊かに たくましく生きる子」

- やさしい子 ○努力をする子
- 理想を求める子 ○きまりを守る子

持続可能な開発目標 (SDGs) に向けて — 平和と公平をすべての人に —

数か月前は「西高東低」の冬型の気圧配置で、太平洋側はほとんど雨が降らない天候が続きました。2月は後半になり、「三寒四温」とはよく言ったもので、一雨ごとに春の訪れを予感させます。

本日2月24日は、何の日でしょうか。ロシアがウクライナに侵攻し、1年になります。首都キーウ（キエフ）攻略によって短期間で終結するもくろみは、欧米の支援を受けて、激しい攻防が続いています。「遠い国の出来事」と思うかもしれませんが、穀物輸出の規制、経済制裁によるエネルギー価格の高騰など、世界経済が大きく揺らいでいるのは事実と思います。松田町は県内の町村として初めて SDGs 未来都市に選定され、小学校でも SDGs に関係する取り組みをしています。子どもたち一人ひとりに、「命を大切にする」「人を傷つけてはいけない」「困っている人を助ける」「人や物に感謝する」「ケンカをしたら仲直りをする」など、人としてごく当たり前のことですが学校生活を通して学んでいます。学校だけでなく、ご家庭でも仲よく気持ちよく生活するためのルールなどを話し合っていたいただけたら幸いです。



雪景色の寄小学校

2023年2月10日撮影

2月8日、時間走記録会より — ご声援、ありがとうございました。—



トルコ・シリア地震から学ぶ — 備えあれば、憂いなし —

2023年2月6日、トルコを中心に大規模な地震が発生しました。大正12年に発生した関東大震災から100年目に当たります。発生直後の朝刊では、「死者5,000人か?」と報じられましたが、懸命な救助・捜索活動にも関わらず、現在死者・行方不明者約50,000人とされています。建築様式や安全基準の違いがあるかもしれませんが、地震の多い日本では十分な対応が求められています。今年度、PTA運営委員会で承認され、児童の非常食（保存食と飲料水）を購入しました。何かあつては



地域に守られている寄っ子

ならないことですが、「命」を第一優先に、想定外を想定しながら子どもたちの安全安心に取り組んでまいります。ご家庭でも、防災リュックや非常食の常備場所をご確認ください。

学校評議員会の開催 — 学校評価の結果より —

1月28日（土）の学校公開日の午後、学校評議員会を開催しました。会議では学校教育目標の進捗状況と子どもたちの学校生活の様子を伝えました。そして、ご家庭の皆様からいただいた学校評価のアンケートの集計結果から話し合いがなされました。主なご意見は、「児童がよく挨拶をしてくれる」「素直な気持ちの子どもが多いように感じる」「体育の学習など、異学年で一緒に学ぶ機会を、今後も設けてほしい」「学校だよりの発行は大変だと思うが、学校がいろいろなことに取り組んでいることが分かるので、続けてほしい」などでした。詳細については、会議の内容を含め学校評価の結果を2月7日付でご家庭に配付させていただきましたので、ご覧ください。



1,2年複式学級

魅力的で想像的な読み物の世界へ — きさらぎ読書旬間 —

近年、子どもの「活字離れ」「書籍離れ」が言われ、スマホやネットの電子書籍やネットニュースなどが社会の主流になりつつあります。本校では朝の時間に読書タイムを実施しています。読書ボランティア「ぱたぽん」さんの活動を以前紹介しましたが、購入してほしい本などを児童にアンケート取り要望を聞いています。さらに定期的に読書推奨期間、例えば、「きさらぎ読書旬間（2月6日～24日）」と称して、読書のすすめをしています。児童の手作りのポスターはもちろんですが、「ぱたぽん」さんの掲示物や書物の紹介は読み手をワクワクさせ、おもわず図書室に行きたくなります。一人2冊まで貸し出していますので、ご家庭でもTVゲームの手を休めて、読書に楽しむ子どもを応援してください。



図書室前の掲示物

体力向上プロジェクト「外遊びチャレンジ」 — 自分の限界に挑戦！ —

本校では「用具や遊具を使用した運動を通して、運動の楽しさを味わい自分のめあてに向かって進んで運動に取り組む」をねらいに、約3週間の体づくり運動に取り組んできました。発表の2月17日はさまざまな運動や遊びに向かって、全力を出し切る姿が見られました。



住み続けられるまちづくりを — 寄ロウバイまつりの奉仕活動 —

寄地区のイベントの一つに「寄ロウバイまつり」があります。本校児童も郷土を知る学習の一環として見学に行きます。特に、6年生は家庭科の授業「共に生きる地域での生活」、5年生は総合の時間「環境」として、



ゴミ拾いを行いながら道路・会場周辺を清掃しました。予想以上に集まったゴミを見て子どもたちは驚くとともに、未来の循環型社会の姿の在り方を考えていくことなのでしょう。